

畜 産 第 7 6 3 号  
令和2年（2020年）7月1日

関係各位（別記送付先のとおり）

北海道農政部生産振興局畜産振興課  
家 畜 衛 生 担 当 課 長

飼養衛生管理基準の改正に係る今後の対応について

日頃より、本道の家畜衛生の推進にご尽力いただき感謝申し上げます。

飼養衛生管理基準の改正については、令和2年7月1日付け畜産第762号でお知らせしたところですが、当該改正により、飼養衛生管理基準の新たな項目が段階的に施行されることとなります。

今後、農林水産省から遵守に係る評価基準や運用上の解釈等の詳細な内容が明確に提示され次第、当課から貴会等へ改めて情報共有と概要の説明を行う予定としているところです。また、各地域においては、家畜保健衛生所が関係者を対象に改正の概要について説明会等を開催する予定としておりますので、引き続き、関係者等への指導等にご協力いただけますようお願いいたします。

連絡先

畜産振興課 主査（防疫）

TEL：011-231-4111（内線 27-783）

Mail：honma.shintaro@pref.hokkaido.lg.jp

## 改正された飼養衛生管理基準の新たな項目の内容と施行日

令和2年7月1日  
畜産振興課家畜衛生係

### 【牛、水牛、鹿、めん羊、山羊】

項目		概要	施行日
項目 1	家畜の所有者の責務	家畜伝染病予防法の改正で追加された「 <u>飼養者の責務</u> 」を遵守すること	令和2年10月1日
項目 2	家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践	飼養者は、基準に基づく「 <u>衛生管理状況を定期的に自己点検</u> 」し、消毒設備等の設置場所を明示した「 <u>平面図を備える</u> 」こと。	令和2年10月1日
項目 3	飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底	農場内の衛生管理に係る規定を記載した「 <u>マニュアルを整備</u> 」し、従業員を含む農場へ出入りする者と共有すること。 (マニュアルの内容) 今後、全国的にひな型が示される予定。 主に、農場へ病源体を侵入させないため、「 <u>海外渡航、農場へ持込む物品の制限や持込む際の消毒、野生動物対策、衛生管理区域内で使用する衣服、消毒の具体的な方法等を記載</u> 」することになる予定。	令和4年2月
項目 7	家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備	野生動物に口蹄疫が発生した場合、農場への病原体の侵入リスクが高まった場合に備えて、「 <u>項目 14 の農場への立入制限</u> 」と「 <u>項目 21 の安全な資材の利用</u> 」について準備すること。	令和2年10月1日
項目 6	獣医師等の健康管理指導	「 <u>農場の規模に関わらず</u> 」、農場の担当獣医師を決め、定期的に健康管理を行うと。また、当該獣医師は、家畜保健衛生所と連携すること。	令和2年10月1日
項目 8	衛生管理区域の考え方を明確化	農場で作業時に使用する作業着や長靴が共通である区域を目安に、「 <u>衛生管理区域を明確化</u> 」すること。	令和2年10月1日
項目 9	放牧制限の準備	口蹄疫が発生した際の措置として、家畜伝染病予防法第34条により放牧が制限されることに備え、「 <u>避難場所の確保等</u> 」を行う。	令和3年10月

項目		概要	施行日
項目 11	愛玩動物の飼育禁止	<u>衛生管理区域内（畜舎ではない）で猫や犬等の愛玩動物を飼養しない</u> こと。	令和2年10月1日
項目 16 項目 17 項目 35	衛生管理区域入口での更衣及び車両の乗降の際の交差汚染防止措置	<u>衛生管理区域の出入口に消毒設備を設置し、人、車両、物の消毒を出る時・入る時に徹底</u> すること。また、 <u>消毒前と消毒後の作業動線が交差しない対策</u> を講じること。特に、 <u>たい肥を処理する重機等の消毒</u> に注意が必要。	令和2年10月1日
項目 24	畜舎ごとの靴の設置並びに使用	畜舎入口では、 <u>専用の靴に履き替える又は靴の消毒を徹底する</u> こと。また、 <u>手指の消毒を行う</u> こと（専用の手袋の着用でも可。）。	令和2年10月1日
項目 29 項目 30	ねずみ及び害虫の駆除	<u>ねずみ及び害虫を駆除するための措置</u> を講じること。また、ねずみ等が隠れる場所を無くすため <u>農場内は整理・整頓</u> すること。	令和2年10月1日
項目 31	畜舎等施設の清掃と消毒	衛生管理区域内の <u>施設は定期的に清掃・消毒する</u> こと。また、消毒することについては <u>「項目3のマニュアル」に記載</u> すること。	令和2年10月1日

※ 上記以外の項目は、従前の飼養衛生管理基準の内容が記載されているので、これまでと同様に遵守すること。

## 【豚、いのしし】

項目		概要	施行日
項目 1	家畜の所有者の責務	家畜伝染病予防法の改正で追加された「 <u>飼養者の責務</u> 」を遵守すること	令和2年7月1日
項目 2	家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践	飼養者は、基準に基づく <u>衛生管理状況を定期的に自己点検</u> し、消毒設備等の設置場所を明示した <u>平面図を備える</u> こと。	令和2年7月1日
項目 3	飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底	農場内の衛生管理に係る規定を記載した <u>マニュアルを整備</u> し、従業員を含む農場へ出入りする者と共有すること。 (マニュアルの内容) 今後、全国的にひな型が示される予定。 主に、農場へ病源体を侵入させないため、 <u>海外渡航、農場へ持込む物品の制限や持込む際の消毒、野生動物対策、衛生管理区域内で使用する衣服、消毒の具体的な方法等を記載</u> することになる予定。	令和3年4月1日
項目 6	獣医師等の健康管理指導	<u>農場の規模に関わらず</u> 、農場の担当獣医師を決め、定期的に健康管理を行うと。また、当該獣医師は、家畜保健衛生所と連携すること。	令和2年7月1日
項目 7	家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備	野生動物に豚熱等が発生した場合、農場への病原体の侵入リスクが高まったとして、当該地域が「 <u>大臣指定地域</u> 」に指定されるとともに追加措置が講じる必要があるため、これに備え、「 <u>項目 14 の農場への立入制限</u> 」、「 <u>項目 22 の安全な資材の利用</u> 」、「 <u>項目 26 の専用の作業着・靴の準備</u> 」、「 <u>項目 28 の畜舎間移動時のケージや消毒</u> 」、「 <u>項目 29 の放牧場の避難設備と防鳥ネット</u> 」について準備すること。	令和2年11月1日
項目 8	衛生管理区域の考え方を明確化	農場で作業時に使用する作業着や長靴が共通である区域を目安に、 <u>衛生管理区域を明確化</u> すること。	令和2年7月1日
項目 9	放牧制限の準備	口蹄疫が発生した際の措置として、家畜伝染病予防 <u>法第 34 条により放牧が制限されることに備え</u> 、 <u>収容できる避難用設備の確保等</u> を行う。	令和3年4月1日

項目		概要	施行日
項目 11	愛玩動物の飼育禁止	<u>衛生管理区域内（畜舎ではない）で猫や犬等の愛玩動物を飼養しない</u> こと。	令和2年7月1日
項目 16 項目 17 項目 35	衛生管理区域入口での更衣及び車両の乗降の際の交差汚染防止措置	<u>衛生管理区域の出入口に消毒設備を設置</u> し、 <u>人、車両、物の消毒を出る時・入る時に徹底</u> すること。また、 <u>消毒前と消毒後の作業動線が交差しな</u> <u>い対策</u> を講じること。特に、 <u>たい肥を処理する重機等の消毒</u> に注意が必要。	令和2年7月1日
項目 21	処理済み飼料の利用	<u>肉及び肉製品が含まれる食品循環資源を原材料として利用する場合、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、攪拌しながら</u> <u>90℃60分以上、又はこれと同等の基準により処理を行う</u> こと。	令和3年4月1日
項目 23	衛生管理区域への野生動物の侵入防止	<u>野生いのししの生息地域に所在する農場は、防護柵の設置（放牧の場合は</u> <u>二重柵。）を行うこと。</u>	令和2年11月1日
項目 26	畜舎ごとの靴の設置並びに使用	<u>大臣指定地域</u> では、畜舎入口で <u>専用の靴に履き替える又は靴の消毒を徹底</u> <u>する</u> こと。また、 <u>手指の消毒を行う</u> こと（専用の手袋の着用でも可。）。	令和2年7月1日
項目 29	野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕並びに大臣指定地域における放牧場についての取組	<u>野鳥等の野生動物が畜舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等へ侵入しな</u> <u>いよう防鳥ネット等を設置</u> すること また、 <u>大臣指定地域</u> 内の <u>放牧場</u> では <u>給餌場所の防鳥ネットの設置</u> 及び <u>家畜を収容できる避難用の設備の確保</u> をすること。	令和2年11月1日
項目 31 項目 32	ねずみ及び害虫の駆除	<u>ねずみ及び害虫を駆除するための措置</u> を講じること。また、ねずみ等が隠 れる場所を無くすため <u>農場内は整理・整頓</u> すること。	令和2年7月1日
項目 33	畜舎等施設の清掃と消毒	衛生管理区域内の <u>施設は定期的に清掃・消毒する</u> こと。また、消毒する ことについては <u>「項目3のマニュアル」に記載</u> すること。	令和2年7月1日

※ 上記以外の項目は、従前の飼養衛生管理基準の内容が記載されているので、これまでと同様に遵守すること。

## 【鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥】

項目		概要	施行日
項目 1	家畜の所有者の責務	家畜伝染病予防法の改正で追加された「 <u>飼養者の責務</u> 」を遵守すること	令和2年10月1日
項目 2	家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践	所有者は、基準に基づく <u>衛生管理状況を定期的に自己点検</u> し、消毒設備等の設置場所を明示した <u>平面図を備える</u> こと。	令和2年10月1日
項目 3	飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底	農場内の衛生管理に係る規定を記載した <u>マニュアルを整備</u> し、従業員を含む農場へ出入りする者と共有すること。 (マニュアルの内容) 今後、全国的にひな型が示される予定。 主に、農場へ病源体を侵入させないため、 <u>海外渡航、農場へ持込む物品の制限や持込む際の消毒、野生動物対策、衛生管理区域内で使用する衣服、消毒の具体的な方法等を記載</u> することになる予定。	令和4年2月
項目 6	獣医師等の健康管理指導	<u>農場の規模に関わらず</u> 、農場の担当獣医師を決め、定期的に健康管理を行うと。また、当該獣医師は、家畜保健衛生所と連携すること。	令和2年10月1日
項目 7	衛生管理区域の考え方を明確化	農場で作業時に使用する作業着や長靴が共通である区域を目安に、 <u>衛生管理区域を明確化</u> すること。	令和2年10月1日
項目 9	愛玩動物の飼育禁止	<u>衛生管理区域内（畜舎ではない）で猫や犬等の愛玩動物を飼養しない</u> こと。	令和2年10月1日
項目 14 項目 15 項目 32	衛生管理区域入口での更衣及び車両の乗降の際の交差汚染防止措置	<u>衛生管理区域の出入口に消毒設備を設置</u> し、 <u>人、車両、物の消毒を出る時・入る時に徹底</u> すること。また、 <u>消毒前と消毒後の作業動線が交差しな</u> <u>い対策</u> を講じること。特に、 <u>たい肥を処理する重機等の消毒</u> に注意が必要。	令和2年10月1日

項目		概要	施行日
項目 24	野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕	<u>畜舎以外の施設で、飼料保管庫、死体保管庫、たい肥舎等の施設がある場合、当該施設でも防鳥ネットを整備</u> すること。	令和2年10月1日
項目 11	愛玩動物の飼育禁止	<u>衛生管理区域内（畜舎ではない）で猫や犬等の愛玩動物を飼養しない</u> こと。	令和2年10月1日
項目 16 項目 17 項目 35	衛生管理区域入口での更衣及び車両の乗降の際の交差汚染防止措置	<u>衛生管理区域の出入口に消毒設備を設置</u> し、 <u>人、車両、物の消毒を出る時・入る時に徹底</u> すること。また、 <u>消毒前と消毒後の作業動線が交差しな</u> <u>い対策</u> を講じること。特に、 <u>たい肥を処理する重機等の消毒</u> に注意が必要。	令和2年10月1日
項目 24	畜舎ごとの靴の設置並びに使用	畜舎入口では、 <u>専用の靴に履き替える又は靴の消毒を徹底する</u> こと。また、 <u>手指の消毒を行う</u> こと（専用の手袋の着用でも可。）。	令和2年10月1日
項目 27	衛生管理区域内の整理・整頓	また、ねずみ等が隠れる場所を無くため <u>農場内は整理・整頓</u> すること。	令和2年10月1日

※ 上記以外の項目は、従前の飼養衛生管理基準の内容が記載されているので、これまでと同様に遵守すること。

【馬】

項目		概要	施行日
項目 1	家畜の所有者の責務	家畜伝染病予防法の改正で追加された「 <u>飼養者の責務</u> 」を遵守すること	令和2年10月1日
項目 2	家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践	所有者は、基準に基づく <u>衛生管理状況を定期的に自己点検</u> し、消毒設備等の設置場所を明示した <u>平面図を備える</u> こと。	令和2年10月1日
項目 3	飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底	<p>牧場内の衛生管理に係る規定を記載した <u>マニュアルを整備</u> し、従業員を含む農場へ出入りする者と共有すること。</p> <p>(マニュアルの内容)</p> <p>今後、全国的にひな型が示される予定。</p> <p>主に、牧場へ病源体を侵入させないため、<u>海外渡航、農場へ持込む物品の制限や持込む際の消毒、野生動物対策、衛生管理区域内で使用する衣服、消毒の具体的な方法等を記載</u> することになる予定。</p>	令和4年2月
項目 5	獣医師等の健康管理指導	<u>牧場の規模に関わらず</u> 、担当の獣医師を決め、定期的に健康管理を行うと。また、当該獣医師は、家畜保健衛生所と連携すること。	令和2年10月1日
項目 6	衛生管理区域の考え方を明確化	牧場で作業時に使用する作業着や長靴が共通である区域を目安に、 <u>衛生管理区域を明確化</u> すること。	令和2年10月1日
項目 7 項目 9 項目 26	衛生管理区域に入る際の消毒等	<u>衛生管理区域の出入口に消毒設備を設置</u> し、 <u>人、車両、物の消毒を入れる時・出る時に徹底</u> すること。また、 <u>消毒前と消毒後の作業動線が交差しな</u> <u>い対策</u> を講じること。特に、 <u>たい肥を処理する重機等の消毒</u> に注意が必要。	令和2年10月1日
項目 8	他の馬の飼養施設等に立ち入った者等が衛生管理区域に立ち入る際の措置	その日、他の牧場等、馬が飼養されている施設に立ち入った者等は、衛生管理区域に入らないようにすること。ただし、やむを得ない場合は、シャワー等を浴びること（牧場の従事者、家畜防疫員、獣医師、装蹄師、飼料	令和2年10月1日



項目	概要	施行日
項目 11	<p>他の馬の飼養施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p><u>他の馬の飼養施設等で使用した</u> 又は使用したおそれがある <u>物品</u> は、原則、<u>衛生管理区域内に持ち込まない</u> こと。やむを得ず持ち込む場合には、<u>洗浄、消毒</u> その他の必要な措置を講ずること。</p>	令和2年10月1日
項目 12	<p>海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p><u>過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まない</u> こと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に <u>洗浄、消毒</u> その他の必要な措置を講ずること。</p>	令和2年10月1日
項目 16	<p>厩舎ごとの靴の設置並びに使用</p> <p>厩舎入口では、<u>専用の靴に履き替える又は靴の消毒を徹底する</u> こと。</p>	令和2年10月1日
項目 18	<p>厩舎外での病原体による汚染防止</p> <p><u>馬の飼養管理に必要な物品を厩舎に持ち込まない</u> こと。</p>	令和2年10月1日
項目 21	<p>衛生管理区域の整理整頓及び消毒</p> <p>ねずみ等が隠れる場所を無くすため <u>牧場内は整理・整頓</u> すること。また、<u>敷地内を定期的に消毒する</u> こと。</p>	令和2年10月1日
項目 22	<p>厩舎等施設の清掃と消毒</p> <p><u>衛生管理区域内の施設は定期的に清掃・消毒すること。また、消毒することについては「項目3のマニュアル」に記載すること。</u></p>	令和2年10月1日

※ 上記以外の項目は、従前の飼養衛生管理基準の内容が記載されているので、これまでと同様に遵守すること。

家畜伝染病予防法等の改正と施行のスケジュール

参考資料

	令和2年										令和3年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~3月	4月
家伝法関係		4/3公布				7/1に施行される規定施行 ・飼養衛生管理者の選任						4/1に施行される規定 ・国の指導等指針 ・都道府県の指導等計画
飼養衛生管理者		国 法改正等への対応通		通知発出							各市町村集約	管理者とりまとめ
飼養衛生管理等指針 飼養衛生管理等計画					国 指導等に係る指針が提示予定		道庁において計画案の作成		最終案			
特定家畜伝染病 防疫指針					7/1に施行される指針 ・豚熱 ・アフリカ豚熱 ・口蹄疫 ・牛疫 ・牛肺疫 ・HPAI・LPAI							
飼養衛生管理基準							在札団体説明会					
飼養衛生管理基準 (豚)	3/9公布	国 対応通知 手引き通知			国 飼養衛生管理基準 の説明パンフ配布				11/1に施行される規定 ・防護柵の設置 ・防鳥ネット設置			4/1に施行される規定 ・農場のマニュアル整備 ・飼料加熱基準の変更
飼養衛生管理基準 (牛・鶏・馬)				国 意見照会				10/1に一部施行				
飼養衛生管理 マニュアル (豚のみ) (その他の家畜は令和4年)						国 ひな型提示				地域別説明会	確認・指導・助言→最終版	
飼料安全法				5~6月パブコメ		6~7月施行						・飼料加熱基準

飼養衛生管理基準（牛、水牛、鹿、めん羊、山羊）

【】内は施行日。記載がないものは本年10月1日に施行。

I 家畜防疫に関する基本的事項

〔人に関する事項〕

1 家畜の所有者の責務

1 家畜の所有者は、飼養する家畜について、家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に対する責任を有する。関係法令を遵守するとともに、この項の規定を踏まえ、農場の防疫体制を構築し、農場の所在地域で飼養されている家畜の所有者その他の関係者と協力して衛生管理の意識を高め、衛生管理を行うこと。また、家畜の所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては、常時連絡が可能である体制を確保し、この項の取組について確実に当該飼養衛生管理者に実施させること。

2 家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践

2 飼養する家畜が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関し、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブサイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定期的に点検し、改善を図ること。また、農場の最新の防疫体制が確認できるよう、消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を作成し、備えておくこと。家畜保健衛生所が行う検査を受け、指導に従うこと。

3 飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底

【令和4年2月】

3 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作成に当たっては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に周知徹底

すること。

- (1) 従事者が当該農場以外で行う動物の飼養及び狩猟における禁止事項
- (2) 海外渡航時及び帰国後の注意事項
- (3) 海外からの肉製品の持込み（郵便物による持込みを含む。）に関する注意喚起
- (4) 農場内への不適切な物品の持込みの禁止
- (5) 可能な限り、工具、機材等を農場内へ持ち込まないための取組
- (6) 持ち込む工具、機材、食品等の取扱い
- (7) 猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止
- (8) 野生動物の衛生管理区域内への侵入防止
- (9) 農場における防疫のための更衣
- (10) 手指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等

#### 4 記録の作成及び保管

- 4 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。
- (1) 衛生管理区域（8に規定する衛生管理区域をいう。以下この項において同じ。）に立ち入った者（当該農場の従事者を除く。）の氏名及び住所又は所属、当該衛生管理区域への立入りの年月日、その目的（所属等から明らかな場合を除く。）並びに消毒の実施の有無（衛生管理区域に車両を入れる者にとっては、当該車両の消毒の有無を含む。消毒の実施の記録については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、これに記入すること。）並びに当該立ち入った者が過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した場合においては、過去一週間以内に滞在した全ての国又は地域の名称及び当該国又は地域における畜産関係施設等への立入りの有無。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原

<p>5 通報ルールの作成等</p> <p>6 獣医師等の健康管理指導</p> <p>7 家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備</p>	<p>体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。</p> <p>(2) 従事者が海外に渡航した場合には、その滞在期間及び国又は地域の名称</p> <p>(3) 導入した家畜の種類、頭数及び健康状態、導入元の農場等の名称並びに導入の年月日</p> <p>(4) 出荷又は移動を行った家畜の種類、頭数及び健康状態、出荷又は移動先の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日</p> <p>(5) 飼養する家畜の頭数、月齢及び異状の有無並びに異状がある場合にあってはその症状並びに獣医師による診療結果及び投薬その他の処置の状況</p> <p>(6) 家畜保健衛生所、担当獣医師等からの当該農場への指導の内容</p> <p>5 大規模所有者は、飼養する家畜が特定症状を呈していることを従業員が発見したときにおいて、当該大規模所有者及び当該大規模所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては当該飼養衛生管理者の許可を得ず、直ちに家畜保健衛生所に通報することを規定したものを作成し、これを全従業員に周知徹底すること。</p> <p>6 農場ごとに、担当の獣医師又は診療施設（家畜保健衛生所と緊密に連絡を行っている者又は施設に限る。）を定め、定期的に当該獣医師又は診療施設から当該農場において飼養する家畜の健康管理について指導を受けること。</p> <p>7 家畜の所有者は、野生動物が口蹄疫等の家畜伝染病の病原体に感染したことが確認されているなど家畜伝染病の発生リスクが高まっているものとして農林水産大臣が指定する地域（以下この項において「大臣指定地域」という。）において追加措置を講ずることとなる 14 及び 21 について、平時からその取組内容を習熟しておくこと。</p>
--	---

<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>8 衛生管理区域の設定</p> <p>9 放牧制限の準備 【令和3年10月】</p> <p>10 埋却等の準備</p> <p>11 愛玩動物の飼育禁止</p> <p>〔家畜に関する事項〕</p> <p>12 密飼いの防止</p>	<p>8 農場に、病原体の侵入及びまん延の防止を重点的に行う区域として衛生管理区域を設定し、衛生管理区域とそれ以外の区域とに分け、両区域の場所が明確に分かるようにすること。衛生管理区域は、畜舎、家畜に直接接触する物品の保管場所並びに家畜に直接接触した者が消毒並びに衣服及び靴の交換（畜舎ごとに行う消毒並びに衣服及び靴の交換を除く。）を行わずに行動する範囲の全てを網羅すること。また、衛生管理区域の設定に当たっては、出入口の数が必要最小限となり、家畜、資材、死体等の持込み又は持出し場所が可能な限り境界に位置するよう設定すること。</p> <p>9 法第三十四条の規定に基づく放牧の停止又は制限があった場合に備え、家畜を収容できる避難用設備の確保又は出荷若しくは移動のための準備措置を講ずること。</p> <p>10 法第二十一条の規定に基づく家畜の死体の埋却の用に供する土地（家畜（月齢が満二十四月以上のものに限る。）一頭当たり五平方メートルを標準とする。）の確保又は焼却若しくは化製のための準備措置を講ずること。</p> <p>11 猫等の愛玩動物について、衛生管理区域内への持込み及び衛生管理区域内での飼育をしないこと（愛玩動物の飼養を業務とする観光牧場等において、飼育場所を限定する場合を除く。）。</p> <p>12 家畜の健康に悪影響を及ぼすような過密な状態で家畜を飼養しないこと。</p>
<p>Ⅱ 衛生管理区域への病原体の侵入防止</p>	

〔人に関する事項〕

13 衛生管理区域への必要のない者の立入りの制限

13 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにするとともに、衛生管理区域に立ち入った者が飼養する家畜に接触する機会を最小限とするよう、出入口及び飼養管理関連施設付近への看板の設置その他の必要な措置を講ずること。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、当該出入口における手指及び靴の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。

14 他の畜産関係施設等に立ち入った者等が衛生管理区域に立ち入る際の措置

14 当日に他の畜産関係施設等又は大臣指定地域に立ち入った者（農場の従事者、家畜防疫員、獣医師、家畜人工授精師、削蹄師、飼料運搬業者、集乳業者その他の畜産関係者を除く。）及び過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した者を衛生管理区域に立ち入らせないようにすること（その者が、シャワーによる身体の洗浄その他の必要な措置を講じた上で、やむを得ず立ち入る場合を除く。）。

15 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等

15 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合及びその者に衛生管理区域専用の手袋を着用させる場合を除く。）。

16 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用

16 衛生管理区域専用の衣服及び靴（衛生管理区域に立ち入る際に着用している衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的なブーツカバーを含む。以下この項において同じ。）を設置し、衛生管理区域に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること（その者が当該衛生管理区

	<p>域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>17 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等</p> <p>18 他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>19 海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>20 飲用水の給与</p>	<p>17 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、車両を入れる者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。衛生管理区域に車両を入れる者に対し、当該農場専用のフロアマットの使用その他の方法により、車内における交差汚染を防止するための措置を講じさせること（その者が衛生管理区域内で降車しない場合を除く。）。</p> <p>18 他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>19 過去四月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>20 飼養する家畜に水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合には、これを消毒すること。</p>



<p>21 安全な資材の利用</p>	<p>21 大臣指定地域において収穫された農産物等を自ら飼料、敷料等に利用する場合は、家畜保健衛生所に助言を求め、指導に従うこと。</p>
<p>〔家畜に関する事項〕</p> <p>22 家畜を導入する際の健康観察等</p>	<p>22 他の農場等から家畜を導入する場合には、導入元の農場等における家畜の伝染性疾病の発生状況及び導入する家畜の健康状態を確認すること等により健康な家畜を導入すること。導入した家畜に家畜の伝染性疾病にかかっている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、他の家畜と直接接触させないようにすること。</p>
<p>Ⅲ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>23 畜舎に立ち入る者の手指消毒等</p> <p>24 畜舎の入口における靴の交換又は消毒</p>	<p>23 畜舎の出入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、畜舎に出入りする際に当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者に当該畜舎専用の手袋を着用させる場合を除く。）。</p> <p>24 畜舎ごとの専用の靴を設置し、畜舎に入る者に対し、これを着実に着用させる又は靴の消毒をさせること。ただし、靴が畜舎外において病原体に汚染する可能性がない状況で行う畜舎間の移動については、この限りでない。靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>25 器具の定期的な清掃又は消毒等</p>	<p>25 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的に行うこと。注射針、人工授精用器具その他の体液（生乳を除く。）が付着する物品を使用する際は、一頭ごとに交換又は消毒をすること。</p>

<p>26 畜舎外での病原体による汚染防止</p> <p>〔野生動物に関する事項〕</p> <p>27 野生動物の侵入防止のための死体の適正な保管</p> <p>28 給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止</p> <p>29 ねずみ及び害虫の駆除</p>	<p>26 家畜の飼養管理に必要な物品を畜舎に持ち込まないこと。</p> <p>27 家畜の死体を保管する場合には、その保管場所への野生動物の侵入を防止するための措置を講ずること。</p> <p>28 畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。</p> <p>29 ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずること。</p>
<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>30 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒</p> <p>31 畜舎等施設の清掃及び消毒</p>	<p>30 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとともに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等を行って、敷地を定期的に消毒すること。</p> <p>31 畜舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基づき定期的に清掃及び消毒すること。</p>
<p>〔家畜に関する事項〕</p> <p>32 毎日の健康観察</p>	<p>32 毎日、飼養する家畜の健康観察（家畜の健康状態の確認に加え、出生及び死亡の状況の確認を含む。）を行うこと。</p>

<p>IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>33 衛生管理区域から退出する者の手指消毒等</p>	<p>33 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>34 衛生管理区域から退出する車両の消毒</p> <p>35 衛生管理区域から搬出する物品の消毒等</p>	<p>34 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、車両を出す者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p> <p>35 家畜の排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管理区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p>
<p>〔家畜に関する事項〕</p> <p>36 家畜の出荷又は移動時の健康観察</p> <p>37 特定症状が確認された場合の早期通報並びに出荷及び移動の停止</p>	<p>36 家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、家畜に付着した排せつ物等の汚れを取り除くとともに、移動の直前に当該家畜の健康状態を確認すること。また、家畜の死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出が生じないようにすること。</p> <p>37 飼養する家畜が特定症状を呈していることを発見したときは、直ちに家畜保健衛生所に通報すること。また、農場からの家畜及びその死体、畜産物並びに排せつ物の出荷及び移動を行わないこと。必要がないにもかかわらず、衛生管理区域内にある物品を衛生管理区域外に持ち出さないこと。</p>

38 特定症状以外の異状が確認された場合の出荷及び移動の停止

38 飼養する家畜に特定症状以外の異状であって、家畜の死亡率の急激な上昇又は同様の症状を呈している家畜の増加が確認された場合（その原因が家畜の伝染性疾病によるものでないことが明らかである場合を除く。）には、直ちに獣医師の診療若しくは指導又は家畜保健衛生所の指導を受けるとともに、当該家畜が監視伝染病にかかっていないことが確認されるまでの間、農場からの家畜の出荷及び移動を行わないこと。当該家畜が監視伝染病にかかっていることが確認された場合には、家畜保健衛生所の指導に従うこと。また、飼養する家畜にその他の特定症状以外の異状が確認された場合には、速やかに獣医師の診療を受け、又は指導を求めること。

飼養衛生管理基準（豚、いのしし）

【内は施行日。記載がないものは本年7月1日に施行。】

<p>I 家畜防疫に関する基本的事項 〔人に関する事項〕</p> <p>1 家畜の所有者の責務</p> <p>2 家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践</p> <p>3 飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底 【令和3年4月】</p>	<p>1 家畜の所有者は、飼養する家畜について、家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に対する責任を有する。関係法令を遵守するとともに、この項の規定を踏まえ、農場の防疫体制を構築し、農場の所在地域で飼養されている家畜の所有者その他の関係者と協力して衛生管理の意識を高め、衛生管理を行うこと。また、家畜の所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては、常時連絡が可能である体制を確保し、この項の取組について確実に当該飼養衛生管理者に実施させること。</p> <p>2 飼養する家畜が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関し、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブサイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定期的に点検し、改善を図ること。また、農場の最新の防疫体制が確認できるよう、消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を作成し、備えておくこと。家畜保健衛生所が行う検査を受け、指導に従うこと。</p> <p>3 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作成に当たっては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に周知徹底</p>
--	--

<p>4 記録の作成及び保管</p>	<p>           すること。            (1) 従事者が当該農場以外で行う動物の飼養及び狩猟における禁止事項            (2) 海外渡航時及び帰国後の注意事項            (3) 海外からの肉製品の持込み（郵便物による持込みを含む。）に関する注意喚起            (4) 農場内への不適切な物品の持込みの禁止            (5) 可能な限り、工具、機材等を農場内へ持ち込まないための取組            (6) 持ち込む工具、機材、食品等の取扱い            (7) 猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止            (8) 野生動物の衛生管理区域内への侵入防止            (9) 農場における防疫のための更衣            (10) 手指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等         </p> <p>           4 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。            (1) 衛生管理区域（8に規定する衛生管理区域をいう。以下この項において同じ。）に立ち入った者（当該農場の従事者を除く。）の氏名及び住所又は所属、当該衛生管理区域への立入りの年月日、その目的（所属等から明らかな場合を除く。）並びに消毒の実施の有無（衛生管理区域に車両を入れる者にとっては、当該車両の消毒の有無を含む。消毒の実施の記録については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、これに記入すること。）並びに当該立ち入った者が過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した場合においては、過去一週間以内に滞在した全ての国又は地域の名称及び当該国又は地域における畜産関係施設等への立入りの有無。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴         </p>
--------------------	---

	<p>の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。</p> <p>(2) 従事者が海外に渡航した場合には、その滞在期間及び国又は地域の名称</p> <p>(3) 導入した家畜の種類、頭数及び健康状態、導入元の農場等の名称並びに導入の年月日</p> <p>(4) 出荷又は移動を行った家畜の種類、頭数及び健康状態、出荷又は移動先の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日</p> <p>(5) 飼養する家畜の頭数、月齢及び異状の有無並びに異状がある場合にあってはその症状並びに獣医師による診療結果及び投薬その他の処置の状況</p> <p>(6) 家畜保健衛生所、担当獣医師等からの当該農場への指導の内容</p>
<p>5 通報ルールの作成等</p>	<p>5 大規模所有者は、飼養する家畜が特定症状を呈していることを従業員が発見したときにおいて、大規模所有者及び当該大規模所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては当該飼養衛生管理者の許可を得ず、直ちに家畜保健衛生所に通報することを規定したものを作成し、これを全従業員に周知徹底すること。</p>
<p>6 獣医師等の健康管理指導</p>	<p>6 農場ごとに、担当の獣医師又は診療施設（家畜保健衛生所と緊密に連絡を行っている者又は施設に限る。）を定め、定期的に当該獣医師又は診療施設から当該農場において飼養する家畜の健康管理について指導を受けること。</p>
<p>7 家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備</p>	<p>7 家畜の所有者は、野生動物が豚熱等の家畜伝染病の病原体に感染したことが確認されているなど家畜伝染病の発生リスクが高まっているものとして農林水産大臣が指定する地域（以下この項において「大臣指定地域」という。）において追加措置を講ずることとなる 14、22、26、28 及び 29 について、平時からその取組内容を習熟しておくこと。</p>

<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>8 衛生管理区域の設定</p> <p>9 放牧制限の準備 【令和3年4月】</p> <p>10 埋却等の準備</p> <p>11 愛玩動物の飼育禁止</p> <p>〔家畜に関する事項〕</p> <p>12 密飼いの防止</p>	<p>8 農場に、病原体の侵入及びまん延の防止を重点的に行う区域として衛生管理区域を設定し、衛生管理区域とそれ以外の区域の境界を柵等によって分け、両区域の場所が明確に分かるようにすること。衛生管理区域は、畜舎、家畜に直接接触する物品の保管場所並びに家畜に直接接触した者が消毒並びに衣服及び靴の交換（畜舎ごとに行う消毒並びに衣服及び靴の交換を除く。）を行わずに行動する範囲の全てを網羅すること。また、衛生管理区域の設定に当たっては、出入口の数が必要最小限となり、家畜、資材、死体等の持込み又は持出し場所が可能な限り境界に位置するよう設定すること。</p> <p>9 法第三十四条の規定に基づく放牧の停止又は制限があった場合に備え、家畜を収容できる避難用の設備の確保又は出荷若しくは移動のための準備措置を講ずること。</p> <p>10 法第二十一条の規定に基づく家畜の死体の埋却の用に供する土地（家畜（月齢が満三月以上のものに限る。）一頭当たり〇・九平方メートルを標準とする。）の確保又は焼却若しくは化製のための準備措置を講ずること。</p> <p>11 猫等の愛玩動物について、衛生管理区域内への持込み及び衛生管理区域内での飼育をしないこと（愛玩動物の飼養を業務とする観光牧場等において、飼育場所を限定する場合を除く。）。</p> <p>12 家畜の健康に悪影響を及ぼすような過密な状態で家畜を飼養しないこと。</p>
<p>Ⅱ 衛生管理区域への病原体の侵入防止</p>	



〔人に関する事項〕

13 衛生管理区域への必要のない者の立入りの制限

13 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにするとともに、衛生管理区域に立ち入った者が飼養する家畜に接触する機会を最小限とするよう、出入口及び飼養管理関連施設付近への看板の設置その他の必要な措置を講ずること。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、当該出入口における手指及び靴の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。

14 他の畜産関係施設等に立ち入った者等が衛生管理区域に立ち入る際の措置

14 当日に他の畜産関係施設等又は大臣指定地域に立ち入った者（農場の従事者、家畜防疫員、獣医師、家畜人工授精師、飼料運搬業者その他の畜産関係者を除く。）及び過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した者を衛生管理区域に立ち入らせないようにすること（その者が、シャワーによる身体の洗浄その他の必要な措置を講じた上で、やむを得ず立ち入る場合を除く。）。

15 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等

15 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合及びその者に衛生管理区域専用の手袋を着用させる場合を除く。）。

16 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用

16 衛生管理区域専用の衣服及び靴（衛生管理区域に立ち入る際に着用している衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的なブーツカバーを含む。以下この項において同じ。）を設置し、衛生管理区域に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること（その者が当該衛生管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合を除く。）。更衣によ

	<p>る病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>17 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等</p> <p>18 他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>19 海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>20 飲用水の給与</p> <p>21 処理済みの飼料の利用 【令和3年4月】</p>	<p>17 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、車両を入れる者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。衛生管理区域に車両を入れる者に対し、当該農場専用のフロアマットの使用その他の方法により、車内における交差汚染を防止するための措置を講じさせること（その者が衛生管理区域内で降車しない場合を除く。）。</p> <p>18 他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>19 過去四月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>20 飼養する家畜に水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合には、これを消毒すること。</p> <p>21 飼養する家畜に肉を扱う事業所等から排出された食品循環資源（食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（平成十二年法律第百十六号）第二条</p>

<p>22 安全な資材の利用</p>	<p>第三項に規定する食品循環資源をいう。)を原材料とする飼料を給与する場合には、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律(昭和二十八年法律第三十五号)に基づき適正に処理が行われたもの(攪拌しながら摂氏九十度以上で六十分間以上又はこれと同等以上の効果を有する方法等で加熱処理を行い、かつ、加熱後の飼料が加熱前の原材料等により交差汚染しないよう必要な措置等が講じられているものをいう。)を用いることとし、当該処理の行われていないものは衛生管理区域内に持ち込まないこと。</p> <p>22 大臣指定地域において収穫された農産物等を自ら飼料、敷料等に利用する場合は、家畜保健衛生所に助言を求め、指導に従うこと。</p>
<p>〔野生動物に関する事項〕</p> <p>23 衛生管理区域への野生動物の侵入防止 【令和2年11月】</p>	<p>23 野生いのししの生息地域に所在する農場においては、衛生管理区域に野生いのししが侵入しないよう防護柵の設置(野生いのしし等のくぐり抜けを防止できるものに限る。放牧場等の屋外飼養施設の場合は、二重柵等の野生いのしし等との接触防止対策が講じられたものに限る。)その他の必要な措置を講ずること。定期的に防護柵その他の破損状況を確認し、破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。ねずみ等の野生動物が隠れる場所をなくすよう、防護柵周囲の除草その他の必要な措置を講ずること。</p>
<p>〔家畜に関する事項〕</p> <p>24 家畜を導入する際の健康観察等</p>	<p>24 他の農場等から家畜を導入する場合には、導入元の農場等における家畜の伝染性疾病の発生状況及び導入する家畜の健康状態を確認すること等により健康な家畜を導入すること。導入した家畜に家畜の伝染性疾病にかかっている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、他の家畜と直接接触させないようにすること。</p>

<p>Ⅲ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>25 畜舎に立ち入る者の手指消毒等</p> <p>26 畜舎ごとの専用の衣服及び靴の設置並びに使用</p>	<p>25 畜舎の出入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、畜舎に出入りする際に当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者に当該畜舎専用の手袋を着用させる場合を除く。）。</p> <p>26 畜舎ごとの専用の衣服（大臣指定地域に限る。）及び靴を設置し、畜舎に入る者に対し、これらを着実に着用させること。ただし、衣服又は靴が畜舎外において病原体に汚染する可能性がない状況で行う畜舎間の移動については、この限りでない。更衣による病原体の畜舎への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。畜舎から家畜、堆肥等を搬出する際には、作業者の動線が畜舎の内外で交差しないよう、畜舎の内外で作業する者を分けること又は専用の靴の履替えその他の必要な措置を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>27 器具の定期的な清掃又は消毒等</p>	<p>27 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的にする。注射針、人工授精用器具その他の体液が付着する物品を使用する際は、注射針にあっては少なくとも畜房ごとに、人工授精用器具その他の物品にあっては一頭ごとに交換又は消毒をすること。</p>

<p>28 畜舎外での病原体による汚染防止</p> <p>〔野生動物に関する事項〕</p> <p>29 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕並びに大臣指定地域における放牧場についての取組 【令和2年11月】</p> <p>30 給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止</p> <p>31 ねずみ及び害虫の駆除</p>	<p>28 家畜の飼養管理に必要な物品を畜舎に持ち込まないこと。大臣指定地域においては、畜舎間で家畜を移動させる場合には、屋根、壁等により野生動物等による病原体の侵入を防止できる畜舎間通路、洗浄及び消毒済みのケージ、リフト等を使用するとともに、畜舎に重機、一輪車等を持ち込む場合には、畜舎の出入口付近において洗浄及び消毒をすること。</p> <p>29 野鳥等の野生動物の畜舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への侵入を防止することができる防鳥ネット（網目の大きさが二センチメートル以下のもの又はこれと同等の効果を有すると認められるものに限る。）その他の設備を設置するとともに、定期的に当該設備の破損状況を確認し、破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。また、大臣指定地域においては、放牧場について給餌場所における防鳥ネットの設置及び家畜を収容できる避難用の設備の確保をすること。</p> <p>30 畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。</p> <p>31 ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずるとともに、畜舎の屋根又は壁面に破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。</p>
<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>32 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒</p>	<p>32 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとともに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等を行って、敷地を定期的に消毒すること。</p>

<p>33 畜舎等施設の清掃及び消毒</p>	<p>33 畜舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基づき定期的に清掃及び消毒すること。</p>
<p>〔家畜に関する事項〕 34 毎日の健康観察</p>	<p>34 毎日、飼養する家畜の健康観察（家畜の健康状態の確認に加え、出生及び死亡の状況の確認を含む。）を行うこと。</p>
<p>IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止 〔人に関する事項〕 35 衛生管理区域から退出する者の手指消毒等</p>	<p>35 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p>
<p>〔物品に関する事項〕 36 衛生管理区域から退出する車両の消毒  37 衛生管理区域から搬出する物品の消毒等</p>	<p>36 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、車両を出す者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p> <p>37 家畜の排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管理区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p>
<p>〔家畜に関する事項〕 38 家畜の出荷又は移動時の健康観察</p>	<p>38 家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該家畜</p>

<p>39 特定症状が確認された場合の早期通報並びに出荷及び移動の停止</p>	<p>の健康状態を確認すること。また、家畜の死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出が生じないようにすること。</p> <p>39 飼養する家畜が特定症状を呈していることを発見したときは、直ちに家畜保健衛生所に通報すること。また、農場からの家畜及びその死体、畜産物並びに排せつ物の出荷及び移動を行わないこと。必要がないにもかかわらず、衛生管理区域内にある物品を衛生管理区域外に持ち出さないこと。</p>
<p>40 特定症状以外の異状が確認された場合の出荷及び移動の停止</p>	<p>40 飼養する家畜に特定症状以外の異状であって、家畜の死亡率の急激な上昇又は同様の症状を呈している家畜の増加が確認された場合（その原因が家畜の伝染性疾病によるものでないことが明らかである場合を除く。）には、直ちに獣医師の診療若しくは指導又は家畜保健衛生所の指導を受けるとともに、当該家畜が監視伝染病にかかっていないことが確認されるまでの間、農場からの家畜の出荷及び移動を行わないこと。当該家畜が監視伝染病にかかっていることが確認された場合には、家畜保健衛生所の指導に従うこと。また、飼養する家畜にその他の特定症状以外の異状が確認された場合には、速やかに獣医師の診療を受け、又は指導を求めること。</p>

## 飼養衛生管理基準（鶏その他家きん）

【】内は施行日。記載がないものは本年10月1日に施行。

<p>I 家畜防疫に関する基本的事項 〔人に関する事項〕</p> <p>1 家きんの所有者の責務</p> <p>2 家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践</p> <p>3 飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底 【令和4年2月】</p>	<p>1 家きんの所有者は、飼養する家きんについて、家きんの伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に対する責任を有する。関係法令を遵守するとともに、この項の規定を踏まえ、農場の防疫体制を構築し、農場の所在地域で飼養されている家きんの所有者その他の関係者と協力して衛生管理の意識を高め、衛生管理を行うこと。また、家きんの所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては、常時連絡が可能である体制を確保し、この項の取組について確実に当該飼養衛生管理者に実施させること。</p> <p>2 飼養する家きんが感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関し、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブサイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定期的に点検し、改善を図ること。また、農場の最新の防疫体制が確認できるよう、消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を作成し、備えておくこと。家畜保健衛生所が行う検査を受け、指導に従うこと。</p> <p>3 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作成に当たっては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家きんの伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に周知徹</p>
---	--



底すること。

- (1) 従事者が当該農場以外で行う動物の飼養及び狩猟における禁止事項
- (2) 海外渡航時及び帰国後の注意事項
- (3) 海外からの肉製品の持込み（郵便物による持込みを含む。）に関する注意喚起
- (4) 農場内への不適切な物品の持込みの禁止
- (5) 可能な限り、工具、機材等を農場内へ持ち込まないための取組
- (6) 持ち込む工具、機材、食品等の取扱い
- (7) 猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止
- (8) 野生動物の衛生管理区域内への侵入防止
- (9) 農場における防疫のための更衣
- (10) 手指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等

#### 4 記録の作成及び保管

- 4 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。
- (1) 衛生管理区域（7に規定する衛生管理区域をいう。以下この項において同じ。）に立ち入った者（当該農場の従事者を除く。）の氏名及び住所又は所属、当該衛生管理区域への立入りの年月日、その目的（所属等から明らかな場合を除く。）並びに消毒の実施の有無（衛生管理区域に車両を入れる者にとっては、当該車両の消毒の有無を含む。消毒の実施の記録については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、これに記入すること。）並びに当該立ち入った者が過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した場合においては、過去一週間以内に滞在した全ての国又は地域の名称及び当該国又は地域における畜産関係施設等への立入りの有無。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原

<p>5 通報ルールの作成等</p> <p>6 獣医師等の健康管理指導</p>	<p>体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。</p> <p>(2) 従事者が海外に渡航した場合には、その滞在期間及び国又は地域の名称</p> <p>(3) 導入した家きんの種類、羽数及び健康状態、導入元の農場等の名称並びに導入の年月日</p> <p>(4) 出荷又は移動を行った家きんの種類、羽数及び健康状態、出荷又は移動先の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日</p> <p>(5) 飼養する家きんの羽数、日齢及び異状の有無並びに異状がある場合にあってはその症状並びに獣医師による診療結果及び投薬その他の処置の状況</p> <p>(6) 家畜保健衛生所、担当獣医師等からの当該農場への指導の内容</p> <p>5 大規模所有者は、飼養する家きんが特定症状を呈していることを従業員が発見したときにおいて、当該大規模所有者及び当該大規模所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては当該飼養衛生管理者の許可を得ず、直ちに家畜保健衛生所に通報することを規定したものを作成し、これを全従業員に周知徹底すること。</p> <p>6 農場ごとに、担当の獣医師又は診療施設（家畜保健衛生所と緊密に連絡を行っている者又は施設に限る。）を定め、定期的に当該獣医師又は診療施設から当該農場において飼養する家きんの健康管理について指導を受けること。</p>
<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>7 衛生管理区域の設定</p>	<p>7 農場に、病原体の侵入及びまん延の防止を重点的に行う区域として衛生管理区域を設定し、衛生管理区域とそれ以外の区域とに分け、両区域の場所が</p>

<p>8 埋却等の準備</p> <p>9 愛玩動物の飼育禁止</p> <p>〔家きんに関する事項〕</p> <p>10 密飼いの防止</p>	<p>明確に分かるようにすること。衛生管理区域は、家きん舎、家きんに直接接 触する物品の保管場所並びに家きんに直接接触した者が消毒並びに衣服及び靴 の交換（家きん舎ごとに行う消毒並びに衣服及び靴の交換を除く。）を行わ ずに行動する範囲の全てを網羅すること。また、衛生管理区域の設定に当た っては、出入口の数が必要最小限となり、家きん、資材、死体等の持込み又 は持出し場所が可能な限り境界に位置するよう設定すること。</p> <p>8 法第二十一条の規定に基づく家きんの死体の埋却の用に供する土地（家き ん（日齢が満百五十日以上のものに限る。）百羽当たり〇・七平方メートル を標準とする。）の確保又は焼却若しくは化製のための準備措置を講ずるこ と。</p> <p>9 猫等の愛玩動物について、衛生管理区域内への持込み及び衛生管理区域 内の飼育をしないこと（愛玩動物の飼養を業務とする観光牧場等において、 飼育場所を限定する場合を除く。）。</p> <p>10 家きんの健康に悪影響を及ぼすような過密な状態で家きんを飼養しない こと。</p>
<p>Ⅱ 衛生管理区域への病原体の侵入防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>11 衛生管理区域への必要のない者の立入りの制限</p>	<p>11 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにするとともに、衛生 管理区域に立ち上がった者が飼養する家きんに接触する機会を最小限とするよ う、出入口及び飼養管理関連施設付近への看板の設置その他の必要な措置を 講ずること。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ること が想定される施設において、当該出入口における手指及び靴の消毒など、不 特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の持込み及び持出 しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであ</p>

<p>12  他の畜産関係施設等に立ち入った者等が衛生管理区域に立ち入る際の措置</p> <p>13  衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等</p> <p>14  衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用</p>	<p>ることを確認した場合は、この限りでない。</p> <p>12  当日に他の畜産関係施設等に立ち入った者（農場の従事者、家畜防疫員、獣医師、飼料運搬業者その他の畜産関係者を除く。）及び過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した者を衛生管理区域に立ち入らせないようにすること（その者が、シャワーによる身体の洗浄その他の必要な措置を講じた上で、やむを得ず立ち入る場合を除く。）。</p> <p>13  衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合及びその者に衛生管理区域専用の手袋を着用させる場合を除く。）。</p> <p>14  衛生管理区域専用の衣服及び靴（衛生管理区域に立ち入る際に着用している衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的なブーツカバーを含む。以下この項において同じ。）を設置し、衛生管理区域に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること（その者が当該衛生管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合を除く。）。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>15  衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等</p>	<p>15  衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、車両を入れる者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備</p>

<p>16  他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>17  海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>18  飲用水の給与</p>	<p>と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。衛生管理区域に車両を入れる者に対し、当該農場専用のフロアマットの使用その他の方法により、車内における交差汚染を防止するための措置を講じさせること（その者が衛生管理区域内で降車しない場合を除く。）。</p> <p>16  他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>17  過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>18  飼養する家きんに水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合には、これを消毒すること。</p>
<p>〔家きんに関する事項〕</p> <p>19  家きんを導入する際の健康観察等</p>	<p>19  他の農場等から家きんを導入する場合には、導入元の農場等における家きんの伝染性疾病の発生状況及び導入する家きんの健康状態を確認すること等により健康な家きんを導入すること。導入した家きんに家きんの伝染性疾病にかかっている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、他の家きんと直接接触させないようにすること。</p>
<p>Ⅲ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p>	

<p>20 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等</p> <p>21 家きん舎ごとの専用の靴の設置及び使用</p>	<p>20 家きん舎の出入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、家きん舎に出入りする際に当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者に当該家きん舎専用の手袋を着用させる場合を除く。）。</p> <p>21 家きん舎ごとの専用の靴を設置し、家きん舎に入る者に対し、これらを着実に着用させること。ただし、靴が家きん舎外において病原体に汚染する可能性がない状況で行う家きん舎間の移動については、この限りでない。履替えによる病原体の家きん舎への侵入を防ぐため、着脱前後の靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、履替えの前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。家きん舎から家きん、堆肥等を搬出する際には、作業者の動線が家きん舎の内外で交差しないよう、家きん舎の内外で作業する者を分けること又は専用の靴の履替えその他の必要な措置を講ずること。靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>22 器具の定期的な清掃又は消毒等</p> <p>23 家きん舎外での病原体による汚染防止</p>	<p>22 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的に行うこと。</p> <p>23 家きんの飼養管理に必要な物品を家きん舎に持ち込まないこと。</p>
<p>〔野生動物に関する事項〕</p> <p>24 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕</p>	<p>24 野鳥等の野生動物の家きん舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への侵入を防止することができる防鳥ネット（網目の大きさが二センチメートル以下のもの又はこれと同等の効果を有すると認められるものに限る。）その他の設備を設置するとともに、定期的に当該設備の破損状況を確認し、破損が</p>

<p>25 給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止</p> <p>26 ねずみ及び害虫の駆除</p>	<p>ある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。</p> <p>25 家きん舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。</p> <p>26 ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずるとともに、家きん舎の屋根又は壁面に破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。</p>
<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>27 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒</p> <p>28 家きん舎等施設の清掃及び消毒</p>	<p>27 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとともに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等を行って、敷地を定期的に消毒すること。</p> <p>28 家きん舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基づき定期的に清掃及び消毒すること。</p>
<p>〔家きんに関する事項〕</p> <p>29 毎日の健康観察</p>	<p>29 毎日、飼養する家きんの健康観察（家きんの健康状態の確認に加え、ふ化及び死亡の状況の確認を含む。）を行うこと。</p>

<p>IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>30 衛生管理区域から退出する者の手指消毒等</p>	<p>30 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>31 衛生管理区域から退出する車両の消毒</p> <p>32 衛生管理区域から搬出する物品の消毒等</p>	<p>31 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、車両を出す者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p> <p>32 家きんの排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管理区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p>
<p>〔家きんに関する事項〕</p> <p>33 家きんの出荷又は移動時の健康観察</p> <p>34 特定症状が確認された場合の早期通報並びに出荷及び移動の停止</p> <p>35 特定症状以外の異状が確認された場合の出荷及び</p>	<p>33 家きんを出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該家きんの健康状態を確認すること。また、家きんの死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出が生じないようにすること。</p> <p>34 飼養する家きんが特定症状を呈していることを発見したときは、直ちに家畜保健衛生所に通報すること。また、農場からの家きん及びその死体、畜産物並びに排せつ物の出荷及び移動を行わないこと。必要がないにもかかわらず、衛生管理区域内にある物品を衛生管理区域外に持ち出さないこと。</p> <p>35 飼養する家きんに特定症状以外の異状であって、家きんの死亡率の急激な</p>



## 移動の停止

上昇又は同様の症状を呈している家きんの増加が確認された場合（その原因が家きんの伝染性疾病によるものでないことが明らかである場合を除く。）には、直ちに獣医師の診療若しくは指導又は家畜保健衛生所の指導を受けるとともに、当該家きんが監視伝染病にかかっていないことが確認されるまでの間、農場からの家きんの出荷及び移動を行わないこと。当該家きんが監視伝染病にかかっていることが確認された場合には、家畜保健衛生所の指導に従うこと。また、飼養する家きんにその他の特定症状以外の異状が確認された場合には、速やかに獣医師の診療を受け、又は指導を求めること。

## 飼養衛生管理基準（馬）

【】内は施行日。記載がないものは本年10月1日に施行。

<p>I 家畜防疫に関する基本的事項 〔人に関する事項〕</p> <p>1 馬の所有者の責務</p> <p>2 家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の 実践</p> <p>3 飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への 周知徹底 【令和4年2月】</p>	<p>1 馬の所有者は、飼養する馬について、馬の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に対する責任を有する。関係法令を遵守するとともに、この項の規定を踏まえ、農場の防疫体制を構築し、農場の所在地域で飼養されている馬の所有者その他の関係者と協力して衛生管理の意識を高め、衛生管理を行うこと。また、馬の所有者以外に飼養衛生管理者がある場合にあっては、常時連絡が可能である体制を確保し、この項の取組について確実に当該飼養衛生管理者に実施させること。</p> <p>2 飼養する馬が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関し、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブサイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定期的に点検し、改善を図ること。また、農場の最新の防疫体制が確認できるよう、消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を作成し、備えておくこと。家畜保健衛生所が行う検査を受け、指導に従うこと。</p> <p>3 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作成に当たっては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。馬の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に周知徹底すること。</p>
---	--

- (1) 従事者が当該農場以外で行う動物の飼養における禁止事項
- (2) 海外渡航時及び帰国後の注意事項
- (3) 海外からの肉製品の持込み（郵便物による持込みを含む。）に関する注意喚起
- (4) 農場内への不適切な物品の持込みの禁止
- (5) 可能な限り、工具、機材等を農場内へ持ち込まないための取組
- (6) 持ち込む工具、機材、食品等の取扱い
- (7) 野生動物の衛生管理区域内への侵入防止
- (8) 手指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等

4 記録の作成及び保管

- 4 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。
- (1) 衛生管理区域（6に規定する衛生管理区域をいう。以下この項において同じ。）に立ち入った者（当該農場の従事者を除く。）の氏名及び住所又は所属、当該衛生管理区域への立入りの年月日、その目的（所属等から明らかな場合を除く。）並びに消毒の実施の有無（衛生管理区域に車両を入れる者にあつては、当該車両の消毒の有無を含む。消毒の実施の記録については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、これに記入すること。）並びに当該立ち入った者が過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した場合にあつては、過去一週間以内に滞在した全ての国又は地域の名称及び当該国又は地域における馬の飼養施設等への立入りの有無。ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。
  - (2) 従事者が海外に渡航した場合には、その滞在期間及び国又は地域の名称

<p>5 獣医師等の健康管理指導</p>	<p>(3) 導入した馬の種類、頭数及び健康状態、導入元の農場等の名称並びに導入の年月日</p> <p>(4) 出荷又は移動を行った馬の種類、頭数及び健康状態、出荷又は移動先の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日</p> <p>(5) 飼養する馬の頭数、月齢及び異状の有無並びに異状がある場合にあってはその症状並びに獣医師による診療結果及び投薬その他の処置の状況</p> <p>(6) 家畜保健衛生所、担当獣医師等からの当該農場への指導の内容</p> <p>5 農場ごとに、担当の獣医師又は診療施設（家畜保健衛生所と緊密に連絡を行っている者又は施設に限る。）を定め、定期的に当該獣医師又は診療施設から当該農場において飼養する馬の健康管理について指導を受けること。</p>
<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>6 衛生管理区域の設定</p>	<p>6 農場に、病原体の侵入及びまん延の防止を重点的に行う区域として衛生管理区域を設定し、衛生管理区域とそれ以外の区域とに分け、両区域の場所が明確に分かるようにすること。衛生管理区域は、厩舎、馬に直接接触する物品の保管場所並びに馬に直接接触した者が消毒並びに衣服及び靴の交換（厩舎ごとに行う消毒並びに衣服及び靴の交換を除く。）を行わずに行動する範囲の全てを網羅すること。また、衛生管理区域の設定に当たっては、出入口の数が必要最小限となり、馬、資材、死体等の持込み又は持出し場所が可能な限り境界に位置するよう設定すること。</p>

## Ⅱ 衛生管理区域への病原体の侵入防止

### 〔人に関する事項〕

7 衛生管理区域への必要のない者の立入りの制限

7 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにするとともに、衛生管理区域に立ち入った者が飼養する馬に接触する機会を最小限とするよう、出入口及び飼養管理関連施設付近への看板の設置その他の必要な措置を講ずること。ただし、競馬場、乗馬施設その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設において、当該出入口における手指及び靴の消毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない。

8 他の馬の飼養施設等に立ち入った者等が衛生管理区域に立ち入る際の措置

8 当日に他の馬の飼養施設等に立ち入った者（農場の従事者、家畜防疫員、獣医師、装蹄師、飼料運搬業者その他の畜産関係者を除く。）及び過去一週間以内に海外から入国し、又は帰国した者を衛生管理区域に立ち入らせないようにすること（その者が、シャワーによる身体の洗浄その他の必要な措置を講じた上で、やむを得ず立ち入る場合を除く。）。

9 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等

9 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合及びその者に衛生管理区域専用の手袋を着用させる場合を除く。）。

<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>10 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等</p> <p>11 他の馬の飼養施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>12 海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置</p> <p>13 飲用水の給与</p>	<p>10 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、車両を入れる者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p> <p>11 他の馬の飼養施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>12 過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。</p> <p>13 飼養する馬に水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合には、これを消毒すること。</p>
<p>〔馬に関する事項〕</p> <p>14 馬を導入する際の健康観察等</p>	<p>14 他の農場等から馬を導入する場合には、導入元の農場等における馬の伝染性疾病の発生状況及び導入する馬の健康状態を確認すること等により健康な馬を導入すること。導入した馬に馬の伝染性疾病にかかっている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、他の馬と直接接触させないようにすること。</p>
<p>Ⅲ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防</p>	

<p><b>止</b></p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>15 厩舎に立ち入る者の手指消毒等</p> <p>16 厩舎の入口における靴の交換又は消毒</p> <p>〔物品に関する事項〕</p> <p>17 器具の定期的な清掃又は消毒等</p> <p>18 厩舎外での病原体による汚染防止</p>	<p>15 厩舎の出入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、厩舎に出入りする際に当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者に当該厩舎専用の手袋を着用させる場合を除く。）。</p> <p>16 厩舎ごとの専用の靴を設置し、厩舎に入る者に対し、これを着実に着用させる又は靴の消毒をさせること。ただし、靴が厩舎外において病原体に汚染する可能性がない状況で行う厩舎間の移動については、この限りでない。靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。</p> <p>17 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的に行うこと。注射針、繁殖検査用器具その他の体液が付着する物品を使用する際は一頭ごとに交換又は消毒をすること。</p> <p>18 馬の飼養管理に必要なない物品を厩舎に持ち込まないこと。</p>
<p>〔野生動物に関する事項〕</p> <p>19 野生動物の侵入防止のための死体の適正な保管</p> <p>20 給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止</p>	<p>19 馬の死体を保管する場合には、その保管場所への野生動物の侵入を防止するための措置を講ずること。</p> <p>20 厩舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。</p>

<p>〔飼養環境に関する事項〕</p> <p>21 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒</p> <p>22 厩舎等施設の清掃及び消毒</p>	<p>21 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとともに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等を行って、敷地を定期的に消毒すること。</p> <p>22 厩舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基づき定期的に清掃及び消毒すること。</p>
<p>〔馬に関する事項〕</p> <p>23 毎日の健康観察</p>	<p>23 毎日、飼養する馬の健康観察（馬の健康状態の確認に加え、出生及び死亡の状況の確認を含む。）を行うこと。</p>
<p>IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止</p> <p>〔人に関する事項〕</p> <p>24 衛生管理区域から退出する者の手指消毒等</p>	<p>24 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p>
<p>〔物品に関する事項〕</p> <p>25 衛生管理区域から退出する車両の消毒</p> <p>26 衛生管理区域から搬出する物品の消毒等</p>	<p>25 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、車両を出す者に対し、当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること（その者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。）。</p> <p>26 馬の排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管理区域</p>



	から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。
<p>〔馬に関する事項〕</p> <p>27 馬の出荷又は移動時の健康観察</p> <p>28 異状が確認された場合の出荷及び移動の停止</p>	<p>27 馬を出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該馬の健康状態を確認すること。また、馬の死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出が生じないようにすること。</p> <p>28 飼養する馬に異状が確認された場合(その原因が馬の伝染性疾病によるものでないことが明らかである場合を除く。)には、直ちに獣医師の診療若しくは指導又は家畜保健衛生所の指導を受けるとともに、当該馬が監視伝染病にかかっていないことが確認されるまでの間、農場からの馬の出荷及び移動を行わないこと。当該馬が監視伝染病にかかっていることが確認された場合には、家畜保健衛生所の指導に従うこと。</p>